

自然史研究

大阪市立自然史博物館

SHIZENSHI-KENKYU, Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History

1967年から2010年にかけての東海地方の水草の分布記録：浜島繁隆氏寄贈水草標本目録

志賀 隆^{1*}・浜島繁隆²

Distribution records of aquatic plants of Tokai region from 1967 to 2010: the catalog of specimens donated to Osaka Museum of Natural History by Mr. Shigetaka Hamashima.

Takashi SHIGA^{1*} and Shigetaka HAMASHIMA²

Abstract: Mr. Shigetaka Hamashima donated his aquatic plant specimens to Osaka Museum of Natural History (OSA) on December 2010. This collection consists of 28 families, 129 taxa, and 1028 specimens collected from 1967 to 2010. These specimens were collected at 26 prefectures, mainly in Tokai region : Aichi Prefecture (542 specimens, 52.7%), Gifu Prefecture (203 specimens, 19.7%), and Mie Prefecture (124 specimens, 12.1%). These specimens are important collections for knowledge of wetland natural history in Tokai region. In this paper, we list the aquatic specimens donated to OSA and the related literature of Mr. Hamashima.

抄録: 2010年12月に著者の一人である浜島繁隆は、大阪市立自然史博物館にこれまで採集してきた東海地方を主とする水生植物コレクションを寄贈した。寄贈した標本の点数は、水生植物28科129分類群1028点であり、1967年から2010年までの44年間かけて採集したものである。これらの標本は、国内26道県、特に愛知県（542点、52.7%）、岐阜県（203点、19.7%）、三重県（124点、12.1%）の3県において重点的に採集されたものである（869点、84.5%）。このコレクションは東海地方の水辺環境を知る上で重要な資料であり、本稿では、大阪市立自然史博物館に寄贈された水草標本と、これに関連する浜島繁隆の文献をリストした。

Key Words : Aichi Prefecture; *Alisma canaliculatum* var. *azuminoense*; *Blyxa alternifolia*; Gifu Prefecture; Mie Prefecture

水生植物は様々な系統群で独立派生的に生まれた水辺環境に適応した植物群の総称である。日本国内の植物標本庫において、水生植物は陸域に生育する植物に比べて標本収蔵数が少ないことがこれまで指摘されてきた（角野, 1986）。水湿地で植物を本格的に採集する場合、胴長靴やボートを必要とする場合も少なくなく、特殊な採集器具を用いる事もある（大滝, 2000）。また、植物体を採集しても、さく葉標本を作製する際には、一般的な陸上植物に比べて手間がかかるため（大阪市立自然史博

物館, 2007）、これらが水生植物の標本の集積を妨げる要因になってきたと思われる。水生植物には絶滅を危惧される分類群が多く（角野, 2014）、これらの標本を作製して標本庫に収蔵することは、日本に生育する水生植物の自然史を理解するうえでも、分布記録の直接的な証拠を残すうえでも極めて重要である。

大阪市立自然史博物館の植物標本庫（OSA）は、日本産水生植物の標本を数多く収蔵している標本庫である。日本の水草研究の基礎を築いた三木茂博士の標本（粉川

大阪市立自然史博物館研究業績 第457号（2017年11月14日受理）

1: 新潟大学教育学部自然情報講座

2: 愛知県名古屋

*: 〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地 新潟大学教育学部自然情報講座 Mathematical and Natural Sciences, Faculty of Education, Niigata University, Ikarashi Ninocho, Nishi-ku, Niigata 950-2181, JAPAN

ら, 2006; 志賀, 2009; 志賀ら, 2009)に加え、梅原徹氏や藤井伸二氏の充実した水草コレクションが収蔵されている。2017年度には神戸大学理学研究科の角野康郎博士の大規模な水草コレクションが寄贈されることにより(角野, 私信)、日本の水生植物相の変遷を俯瞰できる標本庫になることが期待されている。これに先立つ2010年12月に、本稿の著者の一人である浜島繁隆は角野博士からの紹介を受け、長年かけて採集してきた水生植物の標本を同博物館に寄贈した。

浜島はこれまで日本産の水生植物や東海地方の水辺環境をつぶさに観察し、様々な報文や書籍にまとめた(「p15の浜島繁隆の文献リスト」参照)。本コレクションはこれらの証拠標本にあたり、東海地方の水辺環境を知る上で一般の資料であると言える。寄贈したコレクションの中にはタイプ標本は含まれないものの、セトヤナギスブタ *Blyxa alternifolia* (Miq.) Hartogが日本新産の水草として報告された際(浜島, 1982)に引用された標本の重複標本や、アズミノヘラオモダカ *Alisma canaliculatum* A. Braun et C. D. Bouché var. *azuminoense* Kadono et Hamashimaのタイプロカリティーで採集された標本(角野・浜島, 1988)が含まれていることは特筆に値する。

浜島が大阪市立自然史博物館へ寄贈した標本の点数は、水生植物28科129分類群1028点であり、1967年から2010年までの44年間かけて採集されたものである。これらの標本は、国内26道県で採集されたもので、ネパールでの採集品も6点含まれている。都道府県別に採集地域を計算すると、浜島がこれまで重点的に調査を行ってきた東海地方の標本が多く、愛知県(542点、52.7%)、岐阜県(203点、19.7%)、三重県(124点、12.1%)の3県において重点的に採集されている(869点、84.5%)。市町村における採集数をみると、豊橋市(73点)、刈谷市(59点)、名古屋市(44点)、瀬戸市(33点)、知多郡美浜町(32点)が多かった。

本稿では、以下に浜島が大阪市立自然史博物館に寄贈した水草標本と、これに関連する浜島の文献をリストする。

引用文献

- 1) Angiosperm Phylogeny Group IV (APGIV) (2016) An update of the Angiosperm Phylogeny Group classification for the orders and families of flowering plants: APG IV. *Botanical Journal of the Linnean Society* 181:1-20.
- 2) 浜島繁隆(1982)日本新産セトヤナギスブタ(新称). *植物研究雑誌*, 57(7):31-32.
- 3) 角野康郎(1986)再び水草の標本について. *水草研究会会報*(24):12-13.

- 4) 角野康郎(2014)日本の水草. 文一総合出版, 東京.
- 5) 角野康郎・浜島繁隆(1988)ヘラオモダカの新変種 アズミノヘラオモダカ. *植物研究雑誌*, 63(12):19-20.
- 6) 粉川昭平・塚腰 実・南木睦彦・百原 新(2006)三木茂博士収集 植物化石および現生植物標本目録(大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第38集). 大阪市立自然史博物館, 大阪.
- 7) Masuyama S., and Y. Watano (2010) Cryptic species in the fern *Ceratopteris thalictroides* (L.) Brongn. (Parkeriaceae). IV. Taxonomic Revision. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 61(2):75-86.
- 8) 大阪市立自然史博物館(編)(2007)標本の作り方(大阪市立自然史博物館叢書2). 東海大学出版会, 秦野.
- 9) 大滝末男(2000)水草の観察と研究—水草の概観・生態・分類・形態・見分け方(グリーンブックス10)増補改訂版. ニュー・サイエンス社, 東京.
- 10) 志賀 隆(2009)三木茂博士の水草さく葉標本コレクションの概要. *水草研究会誌* (92):22-27.
- 11) Shiga T., J. Ishii, Y. Isagi, and Y. Kadono (2006) *Nuphar submersa* (Nymphaeaceae), a new species from central Japan. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 57(2):113-122.
- 12) 志賀 隆・藤井伸二・瀬戸 剛(2009)三木茂博士寄贈水草さく葉標本目録(附三木茂水草コレクション目録・タイプ標本画像CD)(大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第41集). 大阪市立自然史博物館, 大阪.
- 13) 米倉浩司・邑田 仁(2012)日本維管束植物目録. 北隆館, 東京.

謝辞

本リストを作成するにあたり、神戸大学理学研究科の角野康郎教授にはヒルムシロ科の標本を同定していただいた。また、寄贈された標本は佐藤路子氏、小山栄氏、志賀有子氏にマウントと整理作業をしていただいた。これらの方々には厚くお礼申し上げます。

標本リスト

分類群の科名や配列はAPGIV (Angiosperm Phylogeny Group IV, 2016)に準拠し、学名は基本的に角野(2014)もしくは米倉・邑田(2012)に従った。このリストの中では、浜島が単独で採集したもので採集者番号が付けられていない標本には採集者名を表記していない。大阪市立自然史博物館の植物標本庫(OSA)の登録番号は、各標本の最後に括弧書きで示した。また、

寄贈時に浜島が同定していたものに対して、角野康郎博士や著者の一人である志賀が再同定したものには登録番号に「*」を付した。なお、OSAは新エングレー体系により整理されているため、本リストの順番には収録されていない。利用する際には標本庫の管理者に確認をお願いしたい。

※保全上の配慮からWEB公開版では標本リストを除いています。フルバージョンが必要な方は、利用目的を明示して以下のメールアドレスまでご連絡ください。
monitor@mus-nh.city.osaka.jp

浜島繁隆の文献リスト

大阪市立自然史博物館に寄贈された水生植物コレクションが証拠標本となる浜島繁隆の文献を、発表年順に以下にリストする。

- 1) 浜島繁隆 (1969) 知多半島にカワツルモ産す. 植物採集ニュース, 44:57.
- 2) 浜島繁隆 (1970) 愛知県弥富町にミジンコウキクサ大繁殖. 植物採集ニュース, 47:1.
- 3) 浜島繁隆 (1970) 溜池の水生植物の生態学的研究. 北陸の植物, 18:116-120.
- 4) 浜島繁隆 (1971) 名古屋市内にミジンコウキクサ. 植物採集ニュース, 53:57.
- 5) 浜島繁隆 (1972) 愛知県輪中の水生植物. 植物採集ニュース, 61:21.
- 6) 浜島繁隆 (1973) 木曾川下流域の水生植物の生態学的研究. 北陸の植物, 21 (1):14-18.
- 7) 浜島繁隆 (1975) 奈良県お亀池の水草. 植物採集ニュース, 81:88.
- 8) 浜島繁隆 (1975) 名古屋市内にイボウキクサ発見. 植物採集ニュース, 82:95.
- 9) 浜島繁隆 (1977) 東海地方のため池とその植生. 地域社会, 1(1):66-76.
- 10) 浜島繁隆・田中啓文・谷田沢道彦 (1977) 東海近畿地方のため池の水質と大型水生植物. 肥料による陸水の汚濁と指標植物II. 人間生存と自然環境 (文部省特定研究), 39-45.
- 11) 浜島繁隆 (1978) ため池の水草調査 2 静岡・愛知

- のため池. 植物と自然, 12(13):16-18.
- 12) 浜島繁隆 (1978) ジュンサイは雌ずい先熟. 植物採集ニュース, 99:36.
- 13) 浜島繁隆 (1979) 池沼植物の生態と観察. ニューサイエンス社, 東京.
- 14) 浜島繁隆 (1981) ため池の水草調査 3 三重・岐阜のため池. 植物と自然, 15(13):27-30.
- 15) 浜島繁隆 (1982) 日本新産セトヤナギスプタ (新称). 植物研究雑誌, 57(7):31-32.
- 16) 浜島繁隆 (1983) 東海地方のため池でみられる水生植物の種組成と水質との関係. 陸水学雑誌, 44(1):1-5.
- 17) 浜島繁隆 (1983) 濃尾平野における農業用水路の水生植物の分布と 2、3 の環境要因. 雑草研究, 28(4):38-42.
- 18) 浜島繁隆 (1984) 愛知県産スプタ属. レポート日本の植物, 20:187.
- 19) 浜島繁隆 (1988) 木曾三川下流域の水生植物. 水草研究会会報, (33/34):10-13.
- 20) 角野康郎・浜島繁隆 (1988) ヘラオモダカの新変種アズミノヘラオモダカ. 植物研究雑誌, 63(12):19-20.
- 21) 浜島繁隆 (1990) 鍋田干拓地内農業用水路の水草. 水草研究会会報, (41):12-14.
- 22) 浜島繁隆・倉内一二・中西 正 (1992) 神野新田 (豊橋市) とその周辺干拓地の農業用水路の植生. 水草研究会会報, (46):7-10.
- 23) 浜島繁隆 (1994) 塚の杵池 (名古屋市) の水草相11年の動態. 水草研会誌, (54):19-22.
- 24) 浜島繁隆 (1994) 水草の世界に見られる最近の変化—東海地方の場合—. プランタ, 33:18-24.
- 25) 浜島繁隆 (1996) 名古屋城外堀の水生植物の変遷. ため池の自然, 24:4-5.
- 26) 浜島繁隆 (1997) 濃尾平野南西域にみられる農業用水路の水草相の変化. 水草研究会会報, (62):16-17.
- 27) 浜島繁隆 (1999) 西洞池 (愛知県犬山市) の植生. ため池の自然, 30:28-29.
- 28) 浜島繁隆 (1999) II植物 (3) 水草 (ア) 水域ごとの水草の現状. In: 豊橋市保健環境部環境対策課, 豊橋市自然環境保全基礎調査報告. 豊橋市. pp114-127.
- 29) 浜島繁隆 (2000) 東海地方におけるガガブタの生育するため池の減少とその要因. ため池の自然, 32:5-8.
- 30) 浜島繁隆・近藤繁生・土山ふみ・益田芳樹 (2001) ため池の自然—生き物たちと風景—. 信山社サイテック, 東京.
- 31) 浜島繁隆 (2002) 濃尾平野西部農水地域の水生植物の動態と現状. ため池の自然, 35:15-24.
- 32) 浜島繁隆・須賀英文 (2005) ため池と水田の生き物図鑑 (植物編). トンボ出版, 大阪.
- 33) 浜島繁隆 (2006) 知多半島の植物誌. トンボ出版, 大阪.
- 34) 浜島繁隆・奥田桂介 (2006) 木曾三川流域のため池群の水草. ため池の自然, 43:6-11.
- 35) 浜島繁隆・奥田桂介 (2009) 杭瀬川水系 (岐阜県) の水草. 水草研究会誌, (92):10-12.
- 36) 浜島繁隆 (2017) 水草はどんな草?—それは今. トンボ出版, 大阪.